

研究・調査報告書

報告書番号 17	担当 札幌医科大学医学部薬理学講座
題名 (原題/訳)	
Alcohol and type 2 diabetes - another paradox? アルコールと2型糖尿病-第2のフランスパラドックス?	
執筆者	
Zilkens RR, Puddey IB.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Cardiovasc Risk 10(1):25-30 (2003)	
キーワード	
アルコール、フランスパラドックス、2型糖尿病、インスリン感受性	
要 旨	
<p>“フランスパラドック”とは、フランスでは飽和脂肪酸の豊富な食事習慣にも関わらず、冠動脈性心疾患による死亡率が(他の国と比較して)比較的到低いという疫学的結果に由来する事象である。アルコールに関連した他のパラドックスとして、急性あるいは慢性アルコール使用がインスリン抵抗性、2型糖尿病の発症率、2型糖尿病患者での冠動脈性心疾患の発症率に関して様々に関連していることが示されている。いくつかの報告では、アルコールの急性効果は経口あるいは静脈投与されたブドウ糖負荷に対するインスリン抵抗状態を引き起こすことを示唆している。このアルコール急性効果の研究とは対照的な結果が疫学的な断面研究での多くの事象から得られており、それは、長期間のアルコール暴露はインスリン感受性の改善と関連している、ということである。さらに、かなりの数の(疫学的)前向き研究は、軽度から中等度の慢性アルコール摂取は糖尿病の進展を防ぐ効果があることや、通常程度から中等度の飲酒は2型糖尿病患者での冠動脈性疾患の防止効果があることを指摘している。</p>	